

シリーズ

労働安全・衛生コンサルタントからの声

VOICE.0000

『声かけは無災害への道しるべ』

トマル経営技術コンサルタント 代表
技術士（建設部門/総合技術監理部門）



とまる としお
労働安全コンサルタント 外丸 敏明

はじめに：声かけの重要性

私は、総合建設業の土木技術職として、ずい道・橋梁・圧気・造成工事などの仕事に携わってきました。また、50歳で早期退職をし神戸を基点に個人事業主として労働安全コンサルタント・技術士事務所を設け17年目になります。

事務所の開設後は、安全衛生診断や労働災害撲滅支援・技術支援・国家資格取得支援など、建設業への支援業務を行ってきました。

私が、個人事業主として17年間も継続できたのはまさに仲間の「声かけ」があったからです。個人事業主の土木技術者仲間10人で毎月1回勉強会・懇親会を開き、お互いのコミュニケーションにより心を開くことで、信頼関係の構築が進み個人事業も続いたと思っています。

今年、ISO45001のOHSMS（労働安全衛生マネジメントシステム：ISOに合わせOHSMSと記す）が社会に公表され継続的改善による労働災害低減の動きも始動しています。ここでは、OHSMSの動きと連動させて「声かけ」の重要性について述べたいと思います。

現状把握

無災害を達成するには、現状把握として、現状即ち過去を知らなければなりません。自社および社会における災害情報や効果的な改善事例です。

そして、災害情報から原因を調べ再発防止対策を検討します。また、改善事例から災害を未然に防ぐ予防対策を検討します。

例えば、平成29年の建設業の墜落・転落による死亡者数は135人であり、建設業死亡者数の41.8%を占めています。これらの中には初期発見や初期対応の遅れにより重篤化した悔やまれるケースも多くあります。

特に、初期発見は「声かけ」ができる範囲で働く人の配置を計画することでカバーできるものです。このように現状把握は、最も重要なことであり課題の抽出のために必要になります。

課題抽出

現状把握から、課題は2つ考えられます。1つ目は「過去の災害が再び発生する」という課題です。例えば、同じ原因で再発する災害は継続してチェックする必要があります。

2つ目は、「将来おきるかもしれない災害を予測する」という課題です。

ここで、悩ましいのは2つ目の課題です。これは大変むづかしいです。これがわかれば苦労しません。

例えば、現場車両の駐車に際し出船方式（車両を頭から出られるように停める方式）を採用することで発進時の交通事故は完全に防げます。しかし、この考えはなかなか意見として上がってきません。大変むづかしいとはこういう意味合いです。

また、新工法・新規設備や組織が初めて経験する既存工法などについての、さまざまなリスクの予測対応です。このように考えますと課題は「潜在的な将来のリスクを如何に予測するか」と考えられます。



対策立案

何が起こるか分からない潜在的なリスクを、どうあぶり出せるかが無災害を達成するための鍵になります。ここで私は「声かけ」の重要性を強調したいと思います。

①「声かけ」で信頼構築

「声かけ」は、お互いの信頼関係を構築できます。例えば、挨拶や「声かけ」運動は働く人のやる気につながり、トップダウン・ボトムアップの双方向のコミュニケーションができます。

②「声かけ」で意見具申

「声かけ」のコミュニケーションから意見具申の動きが出てきます。意見具申の中から「潜在的な将来のリスク」が出てきます。そのため、所長は、技術指導以上に「声かけ」への気配りに努めるべきです。

③「声かけ」で心を開く

「声かけ」での意見具申の信頼構築は、さらに深まり働く人の心を開くことができます。例えば、「所長！言いにくいですけど先日△△で転倒しそうになりました」などの情報が出てきます。ハインリッヒの法則の1：29：300の300は、意見として出て来た顕在化したヒヤリ・ハットです。しかし、ここでの「△△で転倒しそうになりました」は「声かけ」をしなければ出てこない潜在的なヒヤリ・ハットであり、これをあぶり出すことができます。

④「声かけ」内容でリスクアセスメント

「声かけ」から出て来た働く人の心にあった、潜在的なリスクである職場のさまざまな不具合事例を活かして「将来に向けた予測対応」として捉えリスクアセスメントを行います。このようにヒヤリ・ハットをあぶり出すことで予測対応が水平展開できて、事柄の小さいうちに予防処置ができます。

また、副次的に以下の効果があります。

①「声かけ」は気分が良くなる

「声かけ」はコミュニケーションツールです。声をかけることで明るい会話ができます。例えば、作業中に他社の方がタオル

を落としたときに「落としましたよ」の一声は他社の方との信頼構築に繋がります。

②「声かけ」で脳を覚醒

「声かけ」の代表である指差呼称は、脳波の覚醒などの効果があり安全作業の促進に有効です。

③「声かけ」で体調管理

労働衛生面で、「声かけ」は体調管理の簡単な手法です。「今日は、ちょっと顔色が悪いですね」などのように声かけと同時に相手の様子を観察できます。

④「声かけ」で初期対応

働く人の配置を考慮して、「声かけ」の届く範囲で作業をすれば、一人作業に伴う初期対応を迅速にできます。例えば、毎年全国で埋設物の不具合による壺掘作業で土砂が崩壊し死亡災害が頻発しています。災害が死亡に至り重篤化する原因として、埋設物施工業者と掘削業者の連絡不足が考えられます。掘削業者は壺掘作業をすれば埋設物業者が点検修理をする間は休憩します。この時に一人作業になり土砂崩壊時の初期対応ができないことになります。このため、「声かけ」の届く範囲で作業をすれば、重篤化を防げます。



おわりに：実践と将来展望

今まで述べた内容は、安全衛生に限ったことではありません。品質・コスト・工期・環境・モラルなどの業務内容のリスク低減活動でも基本は同じです。特に、対策の実行は「今日から実践」が重要になります。普段の生活の中で「声かけ」を実践し、身体に染みつかせることが重要です。

私は、最近「一日一善」を意識し行動しています。例えば、作業所の安全診断パトロールではこちらから挨拶をします。すると必ず返してくれます。また、日常では車の運転時に横断歩道で止まると、必ず市民の方は頭を下げてお礼を返してくれます。気分がとても良くなります。仕事もがんばろうと思います。簡単なことですが実践し、働く人の心の掘り起こしに努めたいと思います。

(hp)

<http://www.geocities.jp/tomaranran/>
ご安全に